

今年没後30年を迎えるタンゴの革命家アストル・ピアソラ

彼が求めた理想の編成である五重奏で

珠玉のピアソラ作品に 命を吹き込む



へプログラム～
五重奏のためのコンチエルト
ブエノス・アイレスの冬
エスクアロ
アルフレッド・ゴビの肖像
ほか

2022
10.15 sat

開場 13:30 開演 14:00

チケット <全席自由> 4,000 円

<U-25 割引き> 2,000 円 (25 歳以下割引)

会場 仙台市シルバーセンター 交流ホール

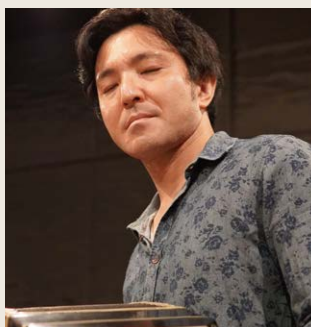
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1丁目3番2号

お問合せ

ムシカ・アリエント事務局 090-7070-1107 (渡辺)

プレイガイド：カワイ仙台、藤崎、チケットぴあ Pコード：22606 【主催】ムシカ・アリエント

五重奏のための
コンチエルト



バンドネオン

渡辺 公章

幼少より矢野吉晴氏の下でピアノを学ぶ。筑波大学第一学群社会学類卒業。大学在学中フランスに留学、バンドネオン奏者ファン・ホセ・モサリーニに出会い、ジュヌピリエ地方国立音楽院でバンドネオンを学ぶ。東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程を修了。その

後、音楽の紹介と日仏間の音楽家の交流を目的とするNPO法人「日仏楽友協会」のプロデューサーとして多くの演奏会、講習会を企画する。タンゴ・グループ「タンゴ・アリエント」主宰。2015年より「吉田正記念オーケストラ」のバンドネオン奏者。2016～2018年、新潟、北上、八戸、山形で「左手のピアニスト」館野泉氏と共演。2017年、舞台『ラストダンスーブエノスアイレスで。』にて劇中の生演奏を担当。2021年アストル・ピアソラ生誕100周年記念コンサート「ピアソラの軌跡」を企画、出演。2022年6月初のソロ・アルバム『LA ROSA DE LOS VIENTOS』をリリース。現在は仙台を中心として各地で演奏活動を行い、またバンドネオンとピアノのレッスンも行っている。

webサイト: tangoaliento.com



ヴァイオリン

ヤンネ 館野

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。ヘルシンキ音楽院にてシルッカ・クーラ、オルガ・パルホメンコ、シカゴ芸術音楽学院にて森悠子の各氏に師事。11年、22年東京文化会館にてリサイタルを行う。15年ヘルシンキにてW.ケンプのヴァイオリンコンチェルトを演

奏。20年シベリウスコンチェルトを山形交響楽団と共演。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター兼音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡室内アンサンブルのメンバーとしても活動。またバロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏も行うなど日本各地で室内楽、オーケストラ奏者、ソリストとして活躍。17年アンサンブルMIDORIを結成、自主企画室内楽コンサートシリーズを開始。18年『Janne Plays Sibelius』(レコード芸術準特選)、21年『Monologo via Corda ～独絃哀歌』(レコード芸術準特選)をリリース。

webサイト: jannetateneno.com



ギター

徳永 真一郎

徳島県出身のギタリスト。9歳からギターを学び、国内のコンクールで入賞を重ねた後、2007年に渡仏。ストラスブール地方音楽院を経て2011年よりパリ国立高等音楽院にて研鑽を積む。2016年、同音楽院修士課程を満場一致の首席で卒業。これまでにギターを

川竹道夫、アレクシス・ムズラキス(デュオ・メリス)、ローラン・ディアンヌ、ジュディカエル・ペロワ各氏に、古楽・リュートを 今村泰典氏に師事。また、キジャーナ音楽院のオスカー・ギリア氏のクラスにて最優秀ディプロマを取得。2008年ナクソス国際ギターコンクール(ギリシャ)第3位、2010年オルシュティン国際ギターコンクール(ポーランド)第1位及びグランプリ。2012年、同フェスティバルにてリサイタル、マスタークラスを行う。2016年ブーローニュ・ビヤンクール現代音楽コンクール《Musique du dernier siècle 2016》にて審査員特別賞(課題曲賞)を受賞。2018年ヴェリア国際ギターコンクールのコンチェルト部門にて第2位入賞。これまでにカレンツァーナ音楽祭(共演:小林真理、メゾソプラノ)や、パリギターフェスティバルなどに招待される。2017年、マドリードのソフィア王妃芸術センターにて指揮ジョルディ・フランススのアンサンブル・ソニド・エクストレモと共演し、作曲家・松宮圭太氏の《ギターとアンサンブルのための小協奏曲》の世界初演のソリストを務める。2011年から2013年度までヤマハ留学奨学生、またフランスのタラツィ財団並びにADAMI財団奨学生。2018年、アルバム『テリュール』をリリース、文化庁芸術祭優秀賞を受賞。



ピアノ

金益 研二

作編曲家・ピアニスト。東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を近藤譲氏に師事。幼少時からピアノ・エレクトーン(電子オルガン)を始め、クラシックからポピュラー音楽全般まで幅広く親しむ。大学卒業後はバンドネオン奏者田邊義博

(Yoshihiro Tanabe)氏との出会いによりアルゼンチンタンゴに興味を持ち、06年にはブエノスアイレスにてホルヘ・ドラゴネ(Jorge Dragone)氏にタンゴピアノを師事。08年より世界の音楽とオリジナル楽曲を織りまぜた独自のスタイルでソロライブ「音の散歩」シリーズを展開。ヴァイオリニスト古澤巖のCD「The Ecstasy Of Gold」(2021)に「Milonga de noche」が収録される他、様々なアーティストへ楽曲・アレンジを提供。ピアニストとしては自身のライブの他に、尺八奏者・渡辺淳氏とのユニット「ウミガメ」や、古澤巖「ヴァイオリンの夜」全国ツアーのピアニストを務める他、柔軟な感性を活かしアルゼンチンタンゴをはじめとした多岐に渡るジャンルのアーティストとのコラボレーション、ミュージカルのオーケストラでの演奏など幅広く活躍中。楽譜:「碧空に咲く花」(マザーアース)「JAZZアレンジで弾くスタジオジブリ」(ヤマハミュージックメディア)他

CD:オリジナル作品集「音の散歩～おいしい風～」他

日本作編曲家協会(JCAA)・日本演奏連盟会員。

趣味はジョギング。

webサイト: <http://www.kanemasukenji.com/>



コントラバス

田辺 和弘

クラシック、アルゼンチンタンゴ、即興演奏などで活動するベーシスト。在学中からタンゴと出会い、日本はもとよりアルゼンチンの若手からタンゴ全盛時代のミュージシャンとも多く共演している。故齋藤徹氏と出会い共演をきっかけに様々なジャンルでも即興的なアプローチを試みている。喜多直毅クアルテットやベーストリオThe Bass Collectiveの他、様々なタンゴバンドに継続的に参加しつつ、ジャンルに関係なくその音楽自体の持つエネルギーを表現するべく模索、活動している。